

令和3年産さくらんぼ作柄調査結果

1 予想作柄

○予想収穫量は9,500トンで、作柄^{※1}は「少ない」。

- ・前年の13,000tに比べ3,500t少ない73%
- ・平年の13,900tに比べ4,400t少ない68%

○4月の降霜により県内全域で雌しべの枯死が発生したことや、開花期の天候が悪かったことから、全般的に着果量が少ない。果実の肥大は良好。

【前年収穫量】13,000t 【平年収穫量】13,900t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)

※1 作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

2 作柄調査の概要

- (1) 調査日:令和3年5月25日(火)
- (2) 調査園地数:48園地
- (3) 調査結果
 - ・花束状短果枝当たりの着果数^{※2}:1.2果(前年:1.8果、平年:1.9果)
 - ・病虫害発生状況:作柄に影響する病虫害の発生はなし

3 収穫盛期の予想

「佐藤錦」:6月20日～25日頃(平年より2～3日、前年より5日程度早い)

「紅秀峰」:6月28日～7月1日頃(平年より2～3日、前年より5日程度早い)

4 今後の対応等

- 着果量の多い園地もみられるため、摘果作業を早期実施するとともに、適切な着色管理や適期収穫など、高品質生産・出荷に向けて、指導を徹底する。
- より精度の高い作柄情報を発信するため、6月4日頃に補完調査を実施し、果実の肥大や裂果の状況、最新の収穫出荷時期の見通し等を消費地市場へ情報提供する。

※2 「花束状短果枝(かそくじょうたんかし)当たりの着果数」について



「花束状短果枝」=花が咲いて実になる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。

以上